

令和5年度 事業計画

社会福祉法人 丹原福祉会

職務目標

【経理】

昨年に引き続き医療介護業界の政策変化に速やかに対応できるよう理解を深める。また、デイサービスや短期入所など在宅サービスの収入安定を優先課題として取り組む。

【事務】

利用者様を尊者とした言葉使いや対応を、事務所から発することで、全職員の接遇向上と稼働率向上に繋げる。

【生活相談員】

介護・看護職員と連携を取り協力を仰ぎ、ご利用者様の状態を把握し、家族様に正確な情報を伝え密な関係を築く。また、入居申し込み者に対し迅速することで、退所から入所までの空室機関を5日以内、稼働率98%以上を目指す。その為にも退所されてから入所されるまでの空室期間を5日以内に抑える。

【介護支援専門員】

利用者様や家族様の要望を聞き、施設サービス計画書に反映していく。また、希望に柔軟に対応しご利用者様の意向に合わせたプラン作成に努める。

【管理栄養士】

介護・看護職員とご利用者様の状態について情報共有をし、ご利用者様個人に合わせた栄養計画を立てていく。また、ご利用者様の嗜好、疾患に応じた食事内容の検討を介護・看護職員や厨房職員と行っていく。

【機能訓練指導員】

愛媛県が進めているトータルセーフティケア(ノーリフティングやポジショニングなどの姿勢管理を24時間実施することで、ご利用者様とスタッフ双方の安全で安楽な生活を実現するケア)を介護・看護職員へ伝達し、スタッフの負担軽減を図るとともに、ご利用者様のADLの維持と向上を図る。またそのための研修を年度内に1回実施する。

居宅介護支援事業所

目 標

地域包括支援センターが市内に完備されたことにより、より一層の地域や関係機関との連携が重要となってくることから、引き続き各所からの新規相談を受け入れていくとともに、地域の社会資源の一つとして、支援困難のケースについても、事業所内ケアマネージャー間で情報共有とサポートをし合い、解決について取り組んでいく。

各ケアマネージャーが1月当たり35件、3人で115件の担当数を目標とする。

また「適切なケアマネジメントの手法」による質の高いケアマネジメントの実施や、業務効率化のための「ケアプランデータ連携システム」についても情報収集と学びの機会を持っていく。

令和5年度 特別養護老人ホーム・ショートステイ・デイサービス 事業計画

事業所名	稼働率及び維持・向上の取組	チーム力強化の取組	事故再発防止への取組	コスト削減の取組	排泄の取組
特養2階 U1	<p>稼働率...98.4%</p> <p>利用者様の体調や表情の変化を見逃さない。変化があれば、主治医等と相談する。また、事故による入院や退所での空所とならない様に、対策を徹底し目標稼働率を維持していく。</p>	<p>1回/4ヵ月、ミーティング時に勉強会を行う。</p> <p>事前に勉強会の題材（課題・不安・疑問）に添って提示すること。また、接遇も併せて研修を行う。</p>	<p>内出血の事故件数が多い為、握らない介助を体験してもらおう。また、ミーティングで対策をモニタリングし、改善点等を話し合い、実施していく。</p>	<p>・二層式洗濯機やお風呂の湯を溜めるタイマーを使用していく。</p> <p>・洗濯機の節水や時短コースを使用する。</p> <p>・10使用時にタイマーを使い、節電をする。</p>	<p>トイレで排泄できる様に福祉用具の利用を継続していく。また、臀部の皮膚状態や快適に過ごしていただけたらに、布パンツをしようとする。限定した場面や理由のみに、リハビリパンツを使用する。</p>
特養2階 U2	<p>目標稼働率...97.5%</p> <p>ご利用者様の体調の変化に早期発見できるように観察を徹底。タナーミーティング前に、相談員・ドクターに早期に状態の報告、積極的に情報を共有する。空所から7日以内の入居を目指す。</p>	<p>前期は高齢者の排泄ケアについて（特に下痢・便秘の原因と予防・対応）の後期はスキントラブル・褥瘡について勉強し、ケアと観察の視点を向上させる。</p>	<p>転倒・転落・骨折の再発防止と高齢者の足の踏さ・移乗の方法について学ぶ。また歩行・立位訓練だけでなく日々の楽しみや活動を増やし、精神的にも安心して活動していただけたらなケアを行う。</p>	<p>・ご飯やおにぎりの保存に使用しているラップは大きい物から小さい物に変更する。6時から時・就寝後はフロアの照明を最小限にする。・汚物室の電氣をつけたままにしない・突発にでた洗濯物は1回ずつ洗濯するのではなくカゴに入れ溜まってから洗う</p>	<p>ご利用者様が無理なく自然な形で排泄できる（排便リズムを整え、快適に過ごしていただく。）</p>
特養3階 U3	<p>目標稼働率...98.5%</p> <p>日々、ご利用者様の体調管理に努め、柔懐等の様子観察をし、異変やレベル低下の早期発見に努める。他職種とも連携し早期発見により入院を防ぐ。また、相談員とも協力し調査・入所をスムーズに行う。</p>	<p>年4回の勉強会を行う。</p> <p>知識...終末期の兆候・事故急変時の対応 技術...ノーマル・マイク・更衣介助 経験の浅い職員も多ク、知識と技術を身につけることで、直後対応など自分で考え行動できるようなりたい。事故再発防止とも関連する技術UPを図りたい。</p>	<p>握らない介助の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベッド柵や重椅子に包装材を巻く ・安全確認（丁寧な声かけ・位置） ・爪チェック ・入浴後の保湿 ・勉強会での技術力UP 	<p>・電氣の節約（汚物室・SS・キッチン・居室）</p> <p>・水道の節約（浴槽・二層式洗濯機・口腔ケア時）</p> <p>・消耗品の節約（おしりふき・ペーパータオル・洗剤）</p>	<p>トイレでの排泄</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誘導時間の見直し ・パットの種類の見直し ・水分量の把握 ・個々の下痢使用日の把握（〇日の把握）
特養3階 U4	<p>目標稼働率...98.5%</p> <p>ご利用者様の体調管理に努め、日々の様子観察を行なう。職員間の情報共有を徹底し、異変の早期発見に努める。</p>	<p>ご利用者様の薬・持病についての知識を深める。・認知症の方とのコミュニケーションの取り方を学び、それらのご利用者様に向けた関わり方を身に付ける。・骨折や内出血に繋がらないための更衣（握らない介助）</p>	<p>内出血・握らない介助の徹底。・更衣時の全身観察。・環境整備（手すりや壁、車椅子など）</p> <p>骨折・ご利用者様の心身の状態をしっかりと把握し、職員間で必ず情報共有・危険予測を行なう。・ヒヤリハットを活用し、事故を未然に防ぐ。</p>	<p>・メインで使用する場合のみ照明を使用し節電。（電氣をつければなしにしない。フロアの照明は日差しやご利用者様の居場所により臨機応変に対応）</p> <p>・洗濯機の使用量を守る。・入浴時の湯はり、二層式洗濯機使用時タイマーを活用し節水。入浴後、汚染物の洗濯の回数を守る。</p>	<p>トイレ内での排泄を継続。（ご利用者様に自然体でいて頂けるよう、個々の排泄パターン、水分量、使用するパットの把握。布パンツでの生活の定着。それぞれに合った、トイレにいろいろ認識のできるような声掛け・トイレでの排泄を取り戻す意識付けの声掛けの継続。）</p>
特養4階	<p>目標稼働率...98.5%</p> <p>皆段からご利用者様の体調管理に努め、異変の早期発見に努める。誤嚥性肺炎等の予防の為、口腔ケアや食事の介助等の方法の共有をし、重症化しないように努める。相談員との連携で事前調査、入所がスムーズに行える。</p>	<p>職員間の技術力の底辺を確保し、MTGを利用して移乗介助、食介、ボジションング、パッド交換等の知識と技術力を高める。また、事故が起こる「ミサカ」の介助について話し合い、気付きの重要性の大切さを知る。</p>	<p>前年度、内出血、皮膚剥離が多かった。各利用者様の問題点を検討し、体位、介助方法を共有し知識力、技術力アップの徹底に繋げる。握らない介助の徹底を9る。</p>	<p>電氣代、の節約</p> <p>洗濯物は基本外干し、雨天の日以外に乾燥機は使用しない。その日の内に乾かかなかった時は次の勤務者に申し送る。又、利用者様の衣類等が少ない時は、家族に連絡し持ち寄り頂く。洗濯機、食器乾燥機等は、少量ではなく、まとめて行う。風呂の水の出し直しは禁止。不必要な電灯は消す。</p>	<p>トイレでの排泄を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誘導時間の見直し ・パットの種類の見直し ・水分量の把握
シヨート	<p>目標稼働率...75%</p> <p>現利用者様・新規利用者様ともケアの見直しを行いながら、受け入れの体制を整えていく。</p>	<p>年5回MTGで勉強会を行い、技術力・知識をアップする。</p> <p>技術...2回 知識...3回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リフト浴・特浴の使用方法 ・iPadでの荷物チェックの方法 ・褥瘡予防について ・危険予知トレーニング ・認知症の方との関わり方 <p>年に3、4回MTGで勉強会を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・接遇マナー、コミュニケーション ・認知症の知識の向上・関わり方 ・機能訓練の知識・技術 ・感染リスクの対応について 	<p>前年度、転倒事故が1番多かった。全職員が利用者様のリスク把握をし、ご家族様から日々の状況の聞き取りをして状態の変化に对应できるように努める。リスク把握の方法として利用者様一人ひとりの危険予知トレーニングをMTGで行う。</p>	<p>・居室のエアコン、電氣は利用者様がフロアにいる時は必ず切る。</p> <p>・洗濯物は天気の良い日は乾燥機は使用せず、外に干す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入浴・口腔ケアの際、水は出しっぱなしにしない。 	<p>利用者が「まだ行きたくない」と思えるような環境作りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① それぞれの身体機能に合わせたレクリエーションの提供 ② 季節感を感じていただけるようなおやつ作りを利用者様と一緒に作る ③ 外出の準備 <p>個々に合わせた排泄を行い、清潔保持に努める。</p> <p>排泄状況、身体状態についてご家族様との連携を密に行う。（排便状況の把握と報告・助言など）</p>
テ イ	<p>目標稼働率...64%（実人数19名）</p> <p>キャンセル時の振替利用を積極的に行う。ご利用者様やご家族様の要望・満足度の調査を行い、工夫、改善をすることで地域の方のロコモに繋げる。</p> <p>取り組み・ケアに対する成果（実例）等、パンフレットに掲載し、老人クラブや公民館等にアピールすることで利用に繋げていく。</p>	<p>・前年度は、転倒事故が多かった。転倒リスクの高いご利用者様・場所・時間帯等を把握し、全職員と共有し、対応に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去にあった事故、ひやりはっとの定期的な振り返りと改善、対応に努める。 ・転倒リスクに繋がらないようにトイレ内の安全な環境作りを努める。（フロア内、介護用臭点検） 	<p>・使用していないコンセントについては、こまめに抜く（パット、食器乾燥機、ノックス等）、不必要な電氣は消す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気温に合わせた適切な温度設定によるエアコンの使用、フィルターの掃除をする。 ・外出ドライブは計画的に行い、燃料費は無駄に使わない。 	<p>・使用していないコンセントについては、こまめに抜く（パット、食器乾燥機、ノックス等）、不必要な電氣は消す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気温に合わせた適切な温度設定によるエアコンの使用、フィルターの掃除をする。 ・外出ドライブは計画的に行い、燃料費は無駄に使わない。 	<p>ただでさえ排泄できない状態に陥り、清潔保持に努める。</p>